

Title	東日本大震災国際神学シンポジウム：「いかにしてもう一度立ち上がるか：これからの100年を見据えて」：実行委員会報告
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 30-31
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3990
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

東日本大震災国際神学シンポジウム

「いかにしてもう一度立ち上がるか——これからの100年を見据えて」

実行委員会報告

2012年3月23日に開催した国際神学シンポジウムそのものについては、34頁以降に「概要と参加者のアンケート」をまとめた。ここでは、シンポジウムの評価と反省、今後の進め方を協議するために、4月4日にお茶の水クリスチャンセンターで開催された実行委員会の協議内容を報告する。

会場：御茶ノ水クリスチャンセンター3階理事室

出席：DRCNet（榊原寛、品川謙二）、東京基督教大学（伊藤天雄）、聖学院大学（藤原淳賀、山本俊明）

欠席：DRCNet（高橋和義）



教派を超え多くの参加者が集まった



実行委員の先生方

1. 参加者アンケートについて（別紙「アンケート集計結果の概要」に基づき意見交換）

1) 全体的に高い評価であった。またディスカッションに対する評価が高い。

2) 「もっと具体的な内容」という要望があるが、今回は、各講演者に大きな問題を語っていただくことがねらいであった。神学的に大きな方向性を示すことと神学的考察をめざしたのであり、成果があったと評価できる。

3) シンポジウムの後半が神学的議論で、前半が今後の取り組みを提案する内容であった。プログラムの前半、後半を入れ替えてもよかったかもしれない。

4) エネルギー政策をどうするかという問題を議論してもよかった。

5) 具体的な問題になると意見の相違が際立つ、連携ができなくなるであろう。

2. シンポジウム報告書の作成について

協賛・後援団体へ報告書を送る。4月20日までは発送。次回代表者会議の開催（5月18日）の案内を兼ねる。内容は下記のとおり。

1) 全体報告

- ①実行委員会（委員会議事録をまとめる）
- ②被災地訪問（品川委員）A4、1,2枚
- ③代表者会議報告（藤原委員）

2) シンポジウム資料1部（増刷30部）各団体に1部

3) シンポジウム参加者アンケート

4) 会計報告・監査報告（聖学院、伊藤委員）

5) 今後の計画（藤原委員）

3. 会計報告・監査報告

1) 会計監査に選出された東京基督教大学、伊藤委員から「問題はないと思うが、さらに精査して監査報告をまとめる」との発言があった。

2) 経費の削減としては、資料印刷を学内印刷

に切り替えるなど考えられる。今回は原稿がそろわず、当日の直前に印刷が出来上がるなど予定がずれ込み、業者に依頼せざるをえなかった。次回は締め切りを早く設定し、印刷代を削減したい。

ちらしの印刷も簡易印刷で削減できる。

3) 参加証をはがきで送ったが、ウェブサイトから参加証をダウンロードし、プリントを持参してもらうことで経費を削減することを検討する。

4. 今後の取り組みについて

1) フラー神学校からの提案

フルー神学校との協議の中で、3年は継続し、その後評価を行い、以降の関係の持ち方について決定する。とりあえず、来年は1名以上を派遣する、とのことであった。

- ①次回は2013年3月20日を中心に開催することを提案する。
- ②主題は「心のケア」となるか？ その場合、ワークショップ形式のものも必要であろうと考える。課題は通訳の問題である。
- ③会場は、東京で開催する場合、青山学院大学を検討している。明治学院大学などにも声をかけたい。東北の被災地でも開催したい。東北学院大学を会場にすることを検討したい。
- ④被災地の教会の意見を聞いて決定する。
- ⑤東北は広く、地域によって課題は異なる。岩手、仙台、福島ときめ細かく課題を捉えたい。DRCNetの20グループを通じて現地の声を吸い上げることができる。ただし3ヶ月程度の時間がかかる。被災地ネットワークの全体会議がある。被災地の声を聞いて、今後の活動に結び付ける。
- ⑥国際神学シンポジウム実行委員会と合同の会議とする。できるだけさまざまな教団、教派を巻き込んだ会議とする。開催時期は6月ぐらいになるか？

2) 日本を神学する研究会の開催

- ①実行委員会をベースに教派を越えた研究会を



開始し、国際神学シンポジウムの議論を継続する。

藤原淳賀教授を責任者として神学研究会を開催する。主題は「大震災を通して日本を神学する」。メンバーは東野尚志、朝岡勝ほか、5、6名で始め、その後増やしていく予定。聖学院本部新館を会場に開催する。

- ②この震災を通じて地域と教会の関係ができた。「他人⇒お客⇒身内」となっている。教会を中心とした街づくりが始まっている地域がある。教会に高齢者介護に取り組むことが期待されている。

神学に加え、宣教論的な文化の問題も研究したい。

- 3) 次回、実行委員会を5月18日(金)18時から20時に聖学院本部新館2階で開催する。3月23日の第一回に引き続き、第二回「代表者会議」として開催する。20名ぐらいの予定。議題は、2013年3月に開催予定の第二回国際神学シンポジウムの主題、会場、それぞれの団体の活動報告。